

古屋 良明 企業法学科3年

私はこの夏休みを利用して、小樽市役所の経済部産業振興課にインターンシップとして研修してきました。小樽市役所を志望した理由としては小樽出身であり、小樽が大好きだからです。また公務員志望というのもありました。

実際に研修に行ってみた第一印象は、自分が思っていた市役所のイメージとはるかに違うということでした。2週間という短い期間でしたが、産業振興課が企画していたキッズベンチャー塾と世界職人学会に携わることができたことは非常に貴重な体験でした。

この研修に望むにあたり、どうすれば小樽がもっと活気づくかということをテーマに設定しました。自分の頭の中には「観光を活用して」という大前提がありましたので、

そのことを確かめようという思いが強かったのかもしれませんが、しかし、インターンシップの研修が進むにつれて、「何も観光がすべてではない」ということが段々わかりはじめてきました。確かに今、小樽は観光の町として知られていますが、昔は産業、商業で栄えていたのだから、そうした伝統を生かすことができれば、また必ず盛り返すと確信しました。市役所は頑張っただけのきっかけ作りをしているのであり、それに市民の力が合わされば、きっと、今市役所の皆さんが行っている仕事が実を結ぶだろうと思いました。

この研修において、自分の考えが小さすぎたこと、地域復興のために小樽市役所が精一杯打ち込んでいることがわかったことは、自分にとって非常に有益であり、有意義な時間を過ごすことができました。

インターンシップに参加して

インターンシップとは、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う」制度のことです。本学では平成10年度から実施しており、平成14年度からは、企業等における就業体験を通して、高い職業意識と職業選択に必要な能力を養うとともに、学習意欲の向上により教育効果を高め、創造性や自主性を備えた人材の育成を図ることを目的とし、「小樽商科大学インターンシップ教育プログラム」に基づいて、正規授業科目(2単位)として開設されており、今年度は36企業等のもとで67名の学生が参加しました。

平子 知明 商学科3年

私は北海道文化放送株式会社(UHB)にて平成15年8月19日から同年9月1日までインターンシップ研修をさせていただきました。マスコミは私の希望職種の中の一つということもあり、将来も見越した上で非常に貴重な経験をさせていただきました。

最初の4日間は、報道局報道部において夕方のニュース番組「スーパーニュース」などで放送するニュースの取材をさせていただきました。実際にテレビで見ているニュースというのがどのように作られているかというのを体験することができ、正直イメージが変わりました。例えば、わずか数十秒のニュースを作るにしても多くの時間をかけて多くの人が関わっています。そして、確実性を追い求めなが

らより他社より優れた番組を作る努力をしています。そのことはテレビの画面からはなかなか窺い知れない貴重な経験でした。

その後、北海道マラソンやプロ野球中継などスポーツ番組制作の現場で研修させていただきました。番組の裏方さんがどのようなことをしているのか、どういう過程を経て番組を作るのかということを経験させていただきました。スポーツ中継もニュースと同様に確実かつ視聴者が見たい・知りたい部分を流すという作業をしています。これも非常に困難な作業であるということをもっと体験できました。

最後になりましたが、インターンシップを受け入れてくださった北海道文化放送株式会社の皆様、本学関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

平成15年度インターンシップ受入企業等 (あいうえお順)

朝日火災海上保険、朝日監査法人、池田雄亮法律事務所、エコクス、小樽市役所、おたる政寿司、札幌銀行、札幌恵友会、札幌市役所、札幌チャレンジド、札幌通運、札幌トヨタ自動車、シーズ・ラボ、ジェイティビー、シティバンク、損害保険ジャパン、太陽グループ、丹波屋、テレベック、東急エージェンシー、ニセコ町役場、日本郵政公社、北洋銀行、北海道開発局、北海道科学技術総合振興センター、北海道経済産業局、北海道総合研究調査会、北海道中央バス、北海道電力小樽支店、北海道文化放送、北海道ベニーエステート、北海道放送、北海道マツダ販売、北海道未来総合研究所、ボラナビ倶楽部、丸井今井